



第一生化学教室（教室だより）

貝淵，弘三

(Citation)

神戸大学医学部神緑会学術誌, 8:168-168

(Issue Date)

1992-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81007260>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007260>



第一生化学教室

第一生化学教室は、1984年より高井義美教授を中心に、細胞内情報伝達機構の解明に取り組んできている。現在、主として ras 癌遺伝子産物などの低分子量 GTP 結合蛋白質に焦点をあて、細胞の癌化、増殖・分化の制御機構や血管平滑筋の収縮や神経機能などを解明するためにさまざまな研究を行っている。以上のテーマに対して、伝統的な生化学、蛋白質化学的手法に加え、分子生物学、細胞工学的手法や遺伝学的手法など多種多彩なテクニックを駆使して、さまざまな面からのアプローチを試みている。

さて、当教室のメンバーは、高井教授をはじめ助教授 1 人、助手 2 名、技官 1 人のスタッフ 5 名と、25 名の大学院生・研究生、さらに 2 名の学部学生からなる大所帯である。大学院生・研究生は当教室以外に、第一、二、三内科、老年科、第一外科、小児科、脳神経外科、整形外科、麻酔科など多くの臨床講座から、さ

らに本学ばかりでなく、東大・京大・阪大・名大などの他大学の臨床講座や企業から出向してきている人もおり、お互いに刺激しあって、教室は早朝から深夜まで、灯りの消えることなく活気にあふれている。また他講座との共同研究もさかんで、第一内科、第二内科、第一外科、小児科、第二解剖、第二生理、ICMR (免疫) とも共同研究を行っており、多くの成果をあげている。さらに学部学生も毎年 1 人か 2 人、夏休みにやってきて実験を始めるが、そのままいつてしまう人が多い。このように若い多種多様な人材が多い中で研究を進めていくことは、新しい発見や大きなブレイクスルーをする上で必要不可欠なことと思われる。

以上のように、当教室が研究面や人材の面でも成熟してきたことは、各方面の先生方の御支援の賜であり、今後益々宜しく願いする次第であります。

(貝淵 弘三・55年卒)

